

第13期 第2回 鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 平成28年8月25日(木) 14時00分 ～ 16時15分

2 会 場 鳥取市役所 第2庁舎 5階会議室

3 出席者 【委員】

本名俊正委員(会長)、野口淑文委員(副会長)、渡辺勘治郎委員、長谷川誠一委員、松ノ谷博委員、大村匡由委員、吉澤春樹委員、川口有美子委員、山田康子委員、牛尾柳一郎委員、田中弘之委員、森本早由里委員

【教育委員会(事務局:校区審議会)】

木村義彦次長、石上直彦主査兼指導主事、大坪宗臣主任

4 会議次第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議事録署名委員の選任

4 報告

(1) 第1回校区審議会審議概要について

(2) 校区審議に関連する活動報告について

(3) 6月定例議会での質問と答弁について

(4) 要望書(かんだの教育を考える会)の受理について

(5) 千代川以西エリアの審議経過について

(6) 市内全小・中学校の児童・生徒数推計について

5 議事

(1) 江山中学校エリアの学校のあり方について

(2) 議論が必要な学校区について

6 その他

7 閉 会

5 議事の概要

事務局

みなさん、今日はお暑い中お出でいただきありがとうございます。只今より、第2回鳥取市校区審議会を開催します。

なお、本日は、大村委員様が初めてのご出席ということでございますので、自己紹介をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員

(自己紹介)

事務局

ありがとうございました。

本日は、議事が2項目ございます。先月、「かんだの教育を考える会」から要望書が教育委員会

に提出されました。今回、その内容についてのご報告をさせていただきたいと考えておりますが、この要望書を受けて、神戸小学校区を含む「江山中学校区の学校のあり方を考える会」の立ち上げの動きがございます。そういった背景もありますので、議事1の江山中学校エリアの学校のあり方についてを中心に慎重なご審議をお願いしたいと思います。

それでは、本名会長、よろしくお願いします。

会長

小中学校も夏休みが終わり、いよいよ秋の学びの時期に入っております。この委員会でも、将来のことについて色々な世の中の流れと併せ、もう少し具体的にそれぞれの学校、あるいは地域で抱えている問題を詳しく知りながら、「地域の方と一緒に次の時代の人を育てる」、「子どもたちをいかにより良い教育の場に導くか」ということで、様々な議論をお願いしたいと思います。

今日は、「かんの教育を考える会」の方からもご説明いただきますので、事務局から提供された色々なデータとの読み取りと併せて議論ができればと思います。地域の方々のご要望も伺いながら、場合によっては、現地に赴いて小学校・中学校を見ながら、次の世代の人をつくる良い会議にしたいと思います。

続いて、議事録署名委員の選任ですが、名簿順にお願いするというので、松ノ谷委員と大村委員をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、報告事項に入ります。事務局より一括して報告をお願いします。

事務局

[資料説明]

会長

ここまでで、ご意見、ご質問、確認したい事項等はございますか。内容が多岐にわたっていますので、なかなか把握が難しいかもしれませんが、これらの内容は、次回以降もご質問を受けながら、全般的に状況把握していきたいと思っております。

児童・生徒数推計を見ると、学校の規模がこれからも増えていく学校と、どんどん減っていく学校がございます。地域によって状況の違いがあるということがお分かりいただけるかと思っております。

それでは、議事に入らせていただきます。報告事項については、後ほどご質問があればお受けしたいと思います。

さて、「かんの教育を考える会」から要望書が出されております。これは、12期からの引き継ぎ事項でもありますが、早急に議論が必要な学校区として位置づけられています。また、神戸だけでなく、江山中学校区全体でも動きがあるようですので、状況を説明していただきながら考えていきたいと思っております。今日は、私からお願いしまして、「かんの教育を考える会」の要望書をまとめられた〇〇会長と〇〇副会長にお出でいただいております。要望書をご説明いただきながら我々としても状況を確認していきたいと思っております。

それでは、お二方、よろしくお願いします。

会長（かんの教育を考える会）

失礼します。「かんの教育を考える会」の会長をしております〇〇です。どうぞよろしくお願いします。本日は発言の機会を与えていただき、ありがとうございます。

7月22日に、要望書を鳥取市教育委員会教育長に出させていただきました。

平成25年に鳥取市校区審議会に「小規模化に伴う教育効果が懸念されるため早急に議論が必要な学区」と位置づけられました。それ以来、地域づくり協議会を中心にPTAや区長会と協力して地域住民の話し合いやアンケートによる意向調査等を進めてきました。アンケートは3回実施したのですが、平成25年の第1回目のアンケート調査の時には、「少子化が進んでいますが、皆さんどう思われますか」というざっくりとしたアンケートをとりました。小学校につきましても、「これからどうしたらいいでしょうか」、「存続したらいいのか」、「どこかと統合したらいいのか」という内容を尋ねましたところ、平成25年の9月の時点では、約34%の方が「どうしても残したい」というご意見でした。その次のアンケートはもう少し内容を深め、平成26年11月に実施したところ、約28%の方が小学校存続のご意向でした。

そうした調査等を進めており、本格的に「神戸の教育をどうするのか」という検討を推進する組織が必要だということになり、昨年度「かんの教育を考える会」を設立しました。

その中で、湖南学園や若桜学園の小中一貫校の実態調査などを進め、今年の2月に18歳以上の全住民を対象に、「神戸小学校のこれから」について、神戸小学校の児童数の推移、江山中学校の生徒数の推移の資料も添付し、アンケート調査を行いました。

約700名の方にアンケートを行い、393名の方からご回答いただきました。神戸地区の戸数が237戸ですので、それを上回る数の回答をいただきました。その結果、「小学校を残したい」という方が17%、「小中一貫校がいいのではないか」という方が43%、「統合した方がいいのではないか」というのが31%、「その他」が9%でした。「その他」の9%の中の7割くらいの方は、もう少し広域のエリアの統合が必要ではないかということでした。「統合」、「小中一貫」、「もう少しエリアの広い校区再編」など、統合等を望む回答というのは、約8割になりました。

そのようなことを受けて、「かんの教育を考える会」で協議しました。会の委員全ての方が、「そういった方向でいこう」という結果ではありませんでした。事務局以外の10数名の委員の中で、一部の委員の方は「学校を残したい」というご意見でした。その他、PTAの方や子どもを持っていらっしゃる方の中には、「今のままではやはり難しいのではないか」、「少子化もここまで進んでは子どもたちのためによくない」という意見が多くありまして、結果として、「かんの教育を考える会」として、「神戸小学校の今後について」要望を提出することに決めました。

(要望書中、要望内容朗読)

これを提出する前に、要望書案という形で、神戸地区に全戸配布しました。また、アンケート結果についても全戸配布しております。検討の経緯なども「公民館だより」等で地域の皆さんに情報提供しながら進めてまいりました。全戸配布した結果、地域の皆さんの了解が得られたのではないかとことで、7月22日にこの要望書を提出させていただきました。

神戸小学校は、今年2名児童が入学しました。来年の入学予定者は1名ですが、その親御さんは「どうしたらいいのか」非常に困っておられるような状況もございます。本当に切羽詰った状態で、もしかしたら入学式もないという状況まできています。

先ほど少し話もございましたが、要望書を提出したことを受け、美和小学校区的美穂地区と大和地区の方と話をする機会を設けていただき、それでは江山中学校についても少子化の問題がありますので、「小中一貫校などの方向を検討しようか」ということで動きが始まっています。是非、子どもたちの教育のためにどうしたらいいのか、早期に結論を出していただきまして、より良い環境を整備していただきますようよろしくお願いいたします。

会長

ご説明ありがとうございました。会長の〇〇さんは、神戸地区の昨年度までの区長会の会長をなさっておられました。地域全体のことを把握されておられます。副会長の〇〇さんは、現在の神戸小学校の PTA 会長でいらっしゃいます。PTA 会長からのお立場からも少しお話を伺えればと思います。

副会長（かんの教育を考える会）

失礼します。先ほどご紹介いただきました、神戸小学校の PTA 会長を務めております〇〇と申します。

PTA 会長 5 年目になったわけですが、神戸小学校の保護者の中でも話をしようということで、これまで 5 回話をいたしました。その間、神戸小学校の保護者、数年後に入学するであろう子どもの保護者も対象にして、あるいは校区審議室の職員にも来ていただいて一緒にお話をしました。

その中で、一度アンケートをとりました。そのアンケートにおいて「保護者からこんな意見が出ている」ということを地区に出しました。そして、先ほど〇〇会長（かんの教育を考える会）からも説明がありましたが、地区でもアンケートをとられ、その地区のアンケート結果を受けて「地区の方はこういう風に考えておられます」ということを、保護者の間で話をしてまいりました。

「神戸小学校を存続させるより、外に出て行った方がいいのではないか」というのが多数の意見でした。「本当なら単独で残したいが、仕方がない」というような意見もあり、全員が「是非、外に出たい」というわけではなく、一つの意見にはならなかったのですが、アンケートの結果においては「統合」、「小中一貫校」の意見が多いということを最終的には地区にお返ししました。

それと同時に、神戸小学校だけの話でもありませんので、美和小学校と江山中学校の PTA 会長の 3 人で話をする機会も作り、「神戸小学校ではこんな話をしているので、美和小学校、江山中学校でも話をしてもらえませんか」ということもお伝えしました。

また、それぞれの町内会に持って行っていただき、もっと大きい区長会等で話をしていただいたり、というような経緯があります。

最終的には、「江山中校区の学校のあり方を考える会」という江山中校区全体の組織で話をしようということで、美和小学校あるいは江山中学校の会長とも話をさせていただいております。今後は、それぞれの地区の区長さん等による進め方に合わせていくことにしています。

私たちの中では、「外に出て行く」ということで意見は出ているのですが、統合がいいのか小中一貫校がいいのか、まだ明確に決まてはいないので、校区審議委員の皆様のお知恵も拝借しながらどのように進めていけばいいのか考えていきたいと思っております。

江山中学校も小規模の学校です。将来、江山中学校もどんな形になるのか分からないということであれば、「もう少し広い校区にした方がいいのではないか」とか「もう少し広い範囲で、例えば河原と一緒にあった方がいいのではないか」という考えの方もいらっしゃったのですが、「まずは慣れている近くの美和の方がいいのではないか」ということで方向性が決まった次第です。

今後は、「江山中校区の学校のあり方考える会」の委員の人選がされるわけですが、そこからまた話をしていけたらと思っています。

〇〇さんは、「かんの教育を考える会」の会長で、この問題が落ち着くまでの会長であります。私は、PTA 会長だからというわけではありませんが、個人的にも「江山中校区の学校のあり方考える会」の一員として最後まで見届けたいという思いでいます。

何卒、ご審議よろしく申し上げます。

会長

ご説明ありがとうございました。せっかくお出でいただいておりますので、直接、ご質問やご確認事項などがありましたらお伺いしたいと思います。

私からですが、神戸地区はかなり面積が広いですが、小学校と中学校以外のところで、保育園はどうなっていますか。

副会長（かんの教育を考える会）

平成24年までは保育園は神戸地区にあったのですが、今は入る人が少ないということで、閉園し、美和保育園と合併ということになりました。ですから、美和の保育園に行っ、神戸小学校に入学するという実態になっています。ですので、神戸地区に学校というのは神戸小学校だけになりました。単独で残したいという方は、保育園もなくなり小学校もなくなれば地区に何も残らない、寂しいという思いをお持ちのようです。

保育園があった頃の最終的な園児数は5人程度で、同級生がいないという学年もありました。そのあたりのこともあり、どうなのかなということもあり、「保育園の保護者の中でもそのまま残すべきなのか」、「美和に行った方がいいのか」ということで何回も話をしたことがあります。

会長

そうすると、神戸地区には保育園はなくて、通いたい方は美和保育園に通っていらっしゃるわけですね。そして、小学校に上がるとまた神戸小学校に戻ってくるということですか。

会長（かんの教育を考える会）

美和保育園に皆が行くわけではなく、市内の他の保育園に行かれる子もおられます。仕事の関係もあり、長時間預かっただけの保育園など、通勤途中に預けて仕事帰りに連れて帰るなどということもあります。

会長

他に、委員の方で何かご質問はございませんか。

委員

確認ですが、江山中学校では、あまり議論が進んでいないということでしょうか。

副会長（かんの教育を考える会）

そうですね。一度、江山中学校の中でも集まって話をしたというのは伺っておりますが、神戸小学校ほど切羽詰まった状況にはないようで、まずは神戸小学校のスタンスが決まってからまた教えていただいて、そこから話をしましょうという流れになっているようです。江山中学校の中で、すぐにどうしようということにはなっていないようです。

会長（かんの教育を考える会）

先ほどの説明は、PTAの中でのお話でした。

区長会では、「江山中学校をどうするか」という指摘も出ておりますので、昨年2回程度、私が区長会長をしている時に、江山中学校区での会がありました。今年は、もう少し進めて、神戸地区としての要望を出しましたので、これを受けて進めていこうという機運はあります。ですので、現

在の区長会長や公民館長ともやり取りをして、これから進めていけるような感じになってきています。

委員

これは、神戸小学校の問題でもあるし、江山中学校の問題でもあります。特に、江山中学校でいけば選択肢として「小中一貫校」、「単独」、「他と合併」ということになるのですが、例えば、神戸小学校と美和小学校が統合という話を進めていたら、江山中学校は「小中一貫校」という話になると、また話が振り出しに戻ってしまうので、まずは議論としては、中学校として校区をどうするのかという方向性を決めて、神戸小学校のあり方を決めるというのがいいのではないかと思います。

それから、現在、河原の布袋に工業団地が立地しており、その周辺に居住地が今後立地するという話があるのかどうかわかりませんが、江山中学校周辺も含めて、あの辺りは市街化調整区域なのでしょうか。

もし、将来的に周辺に宅地造成がなされて居住人口が増える要素があるのであれば、将来の見込みとして考慮する必要があると思います。現在、小学校も中学校も小規模校転入制度というのがありますが、申し訳ないのですが、なかなか神戸小学校まで利用される方は少ないです。しかし、例えば、工業団地が立地した関係で、そこで働かれる方の中に、江山中学校に通わせてもいいなという方が増えれば、子どもが増える可能性もあります。これは、事務局への要望ですが、こういった情報もいただければと思います。

事務局

今、手元に情報を持ち合わせておりませんので、このあたりの市街化調整区域などの規制の状況ですとか、工業団地の進出具合がどうなっているのかという資料をご提示させていただきたいと思います。

会長

他にございませんか。神戸地区としては、色々なご意見はあっても、ほぼ方向としては決まっているわけですね。小学校自体は移すということですね。

会長（かんの教育を考える会）

仕方ないといいますが、それは喜んでという形ではないわけですが、ここまで少子化が進みますと、それはやむを得ないという気持ちです。本当は地域としては残したいのですが、やはり、子どもたちのことが一番です。例えば、今年の1年生は2人ですが、男子と女子です。同じ学年に同性の友達がいないという状況です。

確かに、神戸小学校にもいいところもたくさんあります。少人数ですから、マンツーマンで教えていただいたり、優しい子に育つなど、色々な発表の機会もあってみんなが主役になれます。

ただ、大人になって社会に出たとき、色々な厳しい場面にも遭遇すると思いますが、そうした時に、人間関係を構築するだとか、社会性を育てるであるとかという点を心配しています。そういったことから、将来を考えると、多くの方はやむを得ないと理解してくださっていると思います。

会長

現在は、複式学級の状況になっているわけですか。

会長（かんの教育を考える会）

人数的には複式学級になるのですが、鳥取市の政策として、複式はしないということでサポート教員をつけていただいております。

副会長（かんの教育を考える会）

6学年全部に先生がいらっしゃいます。2年生と3年生は本来ですと、合せて正規の教員は1名しかつかないのですが、もう1名サポートの先生がいて、それぞれの学年を見てくださって実質はそれぞれ担任の先生がいるようなイメージです。純粋な複式学級のスタイルである2つの学年を1つのクラスとして、それを2人の先生で分けて教えるという形ではありません。今、少ない学年は2名なのですが、2名でも1人の先生がついていらっしゃいます。

会長

児童数の推計を見ると、今年度は26名ですが、しばらくすると16名まで減る状況ですね。そうしますと、増える見込みはなかなかなくて、もっと減る傾向にあります。

会長（かんの教育を考える会）

「小学校が無くなると、どんどん子どもが減っていくのではないか」ということも言われますが、逆に今の小学校があるために、「ここでは教育上心配だから」ということで若い方が外に出て行ってしまうことも実際にあります。ですので、どちらがいいということはなかなか言えないということもあります。

委員

夏前に神戸地区を私事で回らせていただいた時に、ある家の前に「かんの教育を考える会」というような札を掲げておられるのを見たのですが。

会長（かんの教育を考える会）

それは、「教育後援会」というもので、地域の方が任意加盟の組織をかなり以前から作られまして、児童がどこか出かける時に補助をしたり、学校の施設に補助をしたりといった活動をされておられます。

委員

お子さんがいらっしゃる、いらっしゃらないに関係なく、学校のことに対して何らかのサポートをされているボランティア団体といったような形なのでしょうか。

副会長（かんの教育を考える会）

今、児童が26名しかいないのですが、「かんの桃祭り」というのが盛んになっておりまして、その売上と教育後援会の助成で、子どもたちが頑張ったからということで、遠足のようなものに連れて行っています。

地区や学校で、大きなものを買うとき、突発的なもので予算がない時などに後援会の方をお願いして一部を出していただいたりという金銭面での支援の他に、学校の草刈りに出てきていただいたりしています。メンバーは、神戸小学校を卒業されたOBの方がほとんどだと思いますが、人数的には多くいらっしゃるようです。その方々が昔からご尽力いただいております、それなりの助成がござ

いまして、子どもたちの遠足などに使わせていただいております。

委員

〇〇副会長（かんの教育を考える会）にお伺いしますが、美和小学校の保護者や地域の方の意識というのは、いかがでしょうか。

副会長（かんの教育を考える会）

まだ、高くはありません。神戸小学校が出てきて、美和小学校に入るというイメージがすごく強いです。

神戸小学校は来年度、「児童が入らないかもしれない、どうしようか」という状況ですが、美和小学校は人数が20数名増えるだけですので、受け入れ体制としては全然問題がないと思います。

美和小学校のPTA役員と話をするという機会はないのですが、統合とかということになれば、学校の名前をどうするかという問題が出てくるわけです。そうすると、色々と決めていかないといけないのですが、仮に吸収合併ですと変えずに済むということもありますが、そんな感覚でいらっしゃるのかどうなのか、ということもまだわかり兼ねるところです。

ただ、現在、地区の区長会長さんがお話を広げていってくださっていますので、その中でまた温度差のようなものが縮まってくるのかなと思います。

委員

整理して考えてみますと、佐治と用瀬の中学校が統合した時、それぞれが「このまま放っておくととても小さい中学校になってしまう」ということで同じ悩みを抱えて統合しました。小学校では、湖南の1小1中、福部も鹿野も同じです。悩みをそれぞれの小学校、中学校が共有していました。

ところが、〇〇副会長（かんの教育を考える会）がおっしゃられたように、神戸地区は要望書を出さざるを得ないくらい、「なんとか教育を考えていかなければいけない」という切実な思いを持っておられますが、美和小学校は「それほどでもない」ようです。

統合を考えた時、最寄りの中学校区の美和小学校が一番最初に考えられる相手校です。江山中学校は美和小学校よりも生徒数減少の悩みを抱えておられると思いますので、小中一貫校かなということも考えられるのですが、美和小学校の方の思いをどう受け止めて、そこをいかにバランスよく調整していくかということがポイントだと思います。

今回の問題は、これまでの鳥取市の統合や小中一貫化の背景と異なっています。そこをどのように、校区審議会が整理しながら進めていき、答申に近づけていくのか、すごく難しいと感じています。

このようなケースは、鳥取市内にありますでしょうか。気高はそうかもしれませんが。

副会長（かんの教育を考える会）

若桜町ではありますが、若桜学園が該当するかもしれません。若桜学園にも視察に行ったのですが、元々小学校が2校あり、中学校1校が一緒になって小中一貫校になったのですが、その内の小学校1校の小規模化が深刻化していたようです。

小中一貫校とするにあたり、すぐに一貫校という形ではなく、まず小学校同士を一緒にして、しばらくしてから一貫校になったということでお聞きしています。ですので、私たちのケースも若桜学園のスタイルに近いのかなということでお話をしておりました。

会長（かんの教育を考える会）

江山中学校を小中一貫校にするということについてですが、江山中学校の生徒は、美和小学校の子どもたちも入るということになります。そうなれば、語弊があるかもしれませんが、一度で課題が整理できるのではないかなと考えています。

委員

これは PTA から聞いた話です。千代南中学校は、佐治中学校と用瀬中学校が一緒になったのですが、ベースが用瀬中学校で学校運営等ができており、名前は新しくなったものの、実際に入ってみると用瀬中心にできた学校のようになっていて、佐治の方が最初はすごく違和感を感じたという声を聞いたことがあります。ただ、これは最初の何年かの話だと思います。

ですので、入っていく児童たちの居場所がどうかという問題もありますので、そういうことを考えると、合併するのであれば美和小学校の中に入ってしまうのではなく、例えば新しい場所で、その地域で新しく教育目標を持って合併するという方がいいのかなと思います。後から入る側が肩身の狭い気持ちになるのではないかなと思ったところです。

会長（かんの教育を考える会）

その辺は意外と少ないと思っています。と言いますのは、現在でも、小学校は別々でも江山中学校と一緒にありますので、その辺りは心配ないのではないかという気がしています。

会長

現状でも、中学校に上がれば、神戸小学校と美和小学校の児童も一緒になるということですね。

副会長（かんの教育を考える会）

ここ数年は、美和小学校と神戸小学校が年に何回かお互いの同じ学年同士で交流を深めてみたり、江山中学校と美和小学校と神戸小学校で遠足に行き、縦割り班で、江山中学校の生徒が美和小学校と神戸小学校の児童を引っ張って一緒に遊ぶなど、校区の中の交流というものをしております。ですので、急に知らない学校に行くというのではなく、年に何回か顔を合わせて、そういう心配をなくし、馴染みやすくしようという思いもそれぞれの校長先生方がお持ちなのかなと感じているところです。

会長

他に、ご質問はよろしいですか。

大分状況を把握されたのではないかと思います。あと、中学校の問題があります。中学校を単独のままにするのか、小中一貫校にするのか、あるいは中学校自体を別のところという話が出るのか、その辺が、鳥取市全体の中学校、小学校をもう一度見ながら考えてみたいと思います。

実状としては、非常に困っている、子どもにとって今のままではとても許せない状況になってきているということは良くわかりました。

委員

ゆくゆくは江山中学校も小規模化が進むので将来的には河原に来るのではないかという噂話が河原ではちらほら聞こえています。

例えば、神戸小学校からすれば、美和小学校と統合し、卒業して江山中学校に通うことになって

も、また江山中学校が他の中学校と一緒になるということになりはしないかということも考えてしまいます。そうすると、子どもにとってみれば、小学校の時も、中学校の時も転校生になるという学年が出てくるのではないかと思います。このようなことは、子どもたちにとってはかわいそうだと思いますので、長いスパンで考えて、もし小規模化が懸念される学校があれば早めに思い切って合併するというのがいいのかなと感じています。どこの地域でも学校を無くすというのは、地域にとっては、すごい財産を失うようなことになるのですが、思い切ったことも必要ではないかと思っています。

副会長（かんの教育を考える会）

今、おっしゃられたことは、本当にそのとおりです。先ほど、アンケートの結果をお示しましたが、その他の意見がまさにそれです。10年後に、もしかすると江山中学校すら無かったら、また転校になるので、最初からもっと大きい中学校に入っていた方がいいのではないかという思いの方もいました。

しかし、何年後というのは読めない部分もありますので、難しいところです。

もし、江山中学校が近くに移るとしたら、主に3つの中学校が考えられるかと思っています。河原中学校、南中学校、高草中学校です。

南中学校は、既にマンモス校でとてもくつつく余裕はないと思います。そうすると、高草か河原に行くかということになってしまいます。もし、高草に行くとなると、神戸からだ確実にバスや自家用車を使わないと絶対に行けない距離になりますし、少なくとも30分以上、通学に時間がかかってきます。そうすると、河原になるのではないかという勝手な推測になってしまうのですが、校区の再編というのなかなか大変というの聞いておまして、先を見越してすればいいのか、それともまずは身近なところで合併を繰り返していった方がいいのかそれぞれの考え方もあります。

また、新たに学校をつくるとなると何十億というお金がかかります。それは簡単にできないだろうと思います。例えば、長谷とかのあたりに広い田んぼがあるので、あの辺に学校があれば倉田などからも通学すればいいのではないかということで皆が好き勝手なことを色々言っているのですが、そうなれば、さらに色々な地区での話し合いをしなければいけないということもあります。結局、今ある学校に行くしかないのではないかと思います。

江山中学校も「いつになったら確実に危ないですよ」ということを共通理解できたら、美和小学校も同じ中学校の問題ですので取り組んでいただけるのかなと思います。

会長

ありがとうございました。本当に多岐にわたりご説明いただきました。

多分、美和小学校はおそらく、「いつまでに対応しないといけない」ということは感じていないと思うのですが、江山中学校のことを考えますと、一緒になって考える時期が来ているのではないかと思います。

したがって、「江山中学校区の学校のあり方考える会」でこのエリア全体で考えていただく時期に来ていると思います。おそらく、美和小学校の方も、そういった中で話をされれば「決して遠い話ではない」「自分たちの目の前の話である」とお感じになられるのではないかと思います。

ここまで、「かんの教育を考える会」の会長さん、副会長さんにご説明いただきましたがよろしいでしょうか。

委員

神戸地区の文化圏・生活圏は、神戸の谷だけという形になりますか。河原との付き合いはあまりなく、どちらかというと、江山中学校周辺くらいでしょうか。

副会長（かんの教育を考える会）

そうですね。神戸、美穂、大和の3つの地区だけです。元々、美和小学校も美穂小学校と大和小学校というのがありまして、それが一緒になりました。当時も、隣同士の2つで話をされていたと思います。

委員

峠を越えて東郷とかというのはないですか。

副会長（かんの教育を考える会）

ないと思います。

委員

以前に、明治と東郷が峠を越えて、交流をしているという話があったので、神戸はどうかなと思ったところです。

副会長（かんの教育を考える会）

保育園同士であれば、神戸小学校と東郷小学校が同じ時期に建てられたということで色々と交流をしていたのですが、地区全体というレベルではそこまでの付き合いはなかったと思います。

会長

江山中学校の名前の「江山」というのは、どうして「江山」なのですか。

会長、副会長（かんの教育を考える会）

すみません、存じ上げておりません。

事務局

美和中学校と神戸中学校が統合して、江山中学校が50年余り前にできたと聞いております。当時は千代中学という仮称でスタートしたのですが、当時の市長が江山という名前を考えられたということです。「江山」の「江」は、千代川の川、「山」は、神戸の山ということのようです。

会長

元々の地名というわけではないのですね。当時の市長さんのアイディアで突然出てきたということですね。将来、仮に小中一貫校となった時には、現在の小学校の名前と中学校の名前が異なっていますので、また全く別の校名になるかもしれません。

会長（かんの教育を考える会）

今、神戸小学校と美和小学校の児童が江山中学校に通学しているわけですから、江山でまとまる

ような気も個人的にはしています。

会長

今日のように、直接地域の方からお話をお伺いする機会は貴重です。またお出でいただくこともあるかもしれません。あるいは、私たちがお伺いさせていただいて、現地でご説明いただく機会があったらいいなと思っております。その時は、またよろしくお願ひします。

お二人に拍手を持ってお送りしたいと思います。ありがとうございました。

(「かんの教育を考える会」会長、副会長退席)

そうしましたら、神戸小学校を含む江山中学校エリアについて、事務局で色々と資料を準備していただいております。また、その他に「江山中学校の学校のあり方を考える会」の準備状況などを把握されておられますので、そのあたりをご説明いただきたいと思います。

事務局

[参考資料の説明、資料の「校区審議に関する活動報告」説明]

会長

ありがとうございました。江山中学校エリア、美穂、大和、神戸の地区の全体の検討状況について、位置図等を含めてご説明いただきました。これから私たちもどこかで結論を出さなければいけないのですが、やはり地域の方と一緒に、地域の方の要望を受けながら決めていくことになると思います。今の事務局の説明に対しての質問やご確認はございませんか。

特にないようでしたら、「かんの教育を考える会」あるいは事務局の説明を受けて、現状を把握されたと思いますので、どのような意見、お考えでも結構ですので順にお話いただこうと思います。〇〇委員からお願いします。

委員

神戸地区の状況はよくわかりました。まず、相手の美和小学校とどうやって話を詰めていかれるのかということが大切だと思います。

PTA 連合会において、美和小学校と神戸小学校の PTA 会長さんは非常にリーダーシップを持った方ですので、まずは PTA の会長同士が PTA としてはどうしていきたいのかということ話し合われて、地域の方に提案するというのも必要ではないかと思ひます。できましたら、中学校も含めた3校の PTA の役員同士で今後も話を進めていかれたらいいかなというふうに思ひます。そうすれば、いい方向が見えてくるのではないかと思ひます。

委員

資料の6ページにあるように、中学生の生徒数を平成40年まで見通した時に、例えば湖南学園に小中一貫校ができていますが、中学校の生徒数で見ると30人台になります。1学年10人程度です。

中学校は教科担任制ですが、中学校の免許を持っている教員の配置などが兼務になると思ひます。要するに、湖南学園だけの授業にその先生を使えない、どこかと兼務をかけないとできなくなります。例えば、小規模の学級数が少ない学校であると、授業数が1週間に3つしかないという先生が

出てくるわけです。こうなると、他の学校と兼務をしてもらわないといけないということが出てきます。そういう問題をクリアしていくためには、小学校だけの話ではなく、中学校区のことも考えていかないといけないと思います。

PTAの方は、間違いなく、大きい学校の方がいいと言われます。鳥取市の西部地域（気高郡）の校区再編問題を考えていた時も、統合についてはPTAの反対はあまりありませんでした。今は、青谷中学校や気高中学校は新しい校舎を建てるということで話が落ち着きましたが、当時、議論がこう着していた時に、PTAの中には大きな立派な校舎がいいといった意見もあったわけです。気高の高台に新しい校舎を大きなお金を使って建てるという構想があった時に、自治会とPTAでは意見が分かれています。まちづくり協議会の皆さんは、「まちに学校がないといけない」と言われるわけです。ここをどのように調整していくのかということがとても難しいのではないかと思います。

したがって、「江山中学校区の学校のあり方を考える会」の構成メンバーもよく検討していかないと、意見が分かれてしまいます。今のように、取りまとめる方がしっかりいらっしゃれば、うまくいくと思うのですが、意見が割れる可能性もあります。その取りまとめをするのはおそらく校区審議会ですので、とても難しい作業が近々やって来るのではないかと思います。

とにかく私は数で見えないといけないと思います。適正規模が最も大切だと思っています。

会長

中学校の適正規模というのは基本的に何クラスくらいなのでしょう。

委員

鳥取市には1学年1クラスの学校がたくさんあります。100人を切っているような学校が概ね該当すると思いますが、資料を見ても6校あります。江山が平成40年には増えていますが、今後さらに増えていく見通しがあるのでしょうか。校舎は建てた以上は使わないといけません。10年ぐらいのスパンで見えてもいけないように思います。

委員

青谷にしても気高にしても統合するという案が最初に出ていました。まずは、「通学距離」と「適正配置」と「安全な通学路」という3つのことを原点に検討しようということから審議会が始まりました。

その頃に、福部が一貫校にするということを初めて発表されました。他の青谷や気高もどこも自分たちもそうすれば残せるのではないかという形になってきて、それから一貫校にしようという話が急に進んでしまったような気がしています。統合がなくなり、青谷中学校も気高中学校も改築に、鹿野中学校も一貫校にしようということになりました。

元は、3つの原則を守ってやろうとしていた審議会が、地域の意見などを尊重しようということになったものですから、色々な話を聞く中で、「地域に学校を残したいということ」が優先されて、改築や一貫校という形で全部が残ったという形になったと思っています。

自治連の会長会では、地域に検討組織を作っていただくようにお話をしていたのですが、前回の議事録にもありましたが、必ずしも全市域の皆さんに危機感があるというわけではないです。例えば、教育委員会あるいは校区審議会から方向性が出たということになれば、危機感が出るのですが、「何もしなければ何もする必要がない」というのがほとんどだと思います。

神戸地区については、今の「かんの教育を考える会」の会長さんが区長会長の時からしっかりと取り組まれてきました。しかし、大和と美穂の会長さんは以前から、「私どもは、神戸が入ってこられるなら、別にかまわない。神戸さん次第です。」ということを前から言っておられました。

そういう状況でしたので、この度、神戸地区さんの考えがまとまりましたので、江山エリアでの話し合いに入られたらいい話になるのではないかと考えています。

本日、この審議会にご出席いただきお話を伺いました。お二人も検討組織に参加され、おそらくしっかりと話を進めていかれるのだろうと心強く思っております。今日ご提示いただいたアンケートの中では、江山中学校との一貫校というのが主のような結果になっておりますので、河原など広い範囲でということもありましたが、それはまず置いといて、一貫校や統合というところから進められた方がいいと思います。まずは、アンケートの結果を考慮することが大切だと思います。

このような校区問題を進める自治会の会長さんは、リーダーシップが素晴らしい方ばかりですので、ちょうど神戸地区もいい会長さんがおられますし、副会長さんも PTA の会長さんということで、この時期に進めていただくのが一番いいのではないかと期待しています。

委員

生徒数が少なくなると、自分のやりたいスポーツとか音楽などの部活動も限られてくるので、子どもがそういったものを選ぶことができる適正規模の学校というのを考慮した方がいいのではないかと思います。

委員

なかなか簡単にはいかないなという感じを受けております。確かに適正規模、単に近くの学校がくっつけばいいというものではなく、将来的なことを考えるとそれだけでは終わらないかもしれません。この地域に限らず、なかなか大変だなと思っております。

委員

江山中エリアの大体の状況については、事務局で詳細な資料を準備していただいてよく内容が分かりました。今までの校区審議会では、学校をどうするかという問題について地域ごとにかなりの温度差がありました。それぞれの地域においてリーダーシップを持って進められている方を中心に、地域の特性を含めた形で、小さい学校でも存続を選ばれている学校もありますので、こうだということでは一概に言えない部分もあると思います。大変難しいところです。

神戸小学校については、そんなに悠長にしている時間的な余裕はないのですが、意見が集約できるように地域での会をもっと増やしていただくと同時に、この審議会でもそれに合わせた審議を進めていけたらと考えています。

委員

私は昨年まで小中一貫校の湖南学園で PTA 会長をしておりました。クラスの適正人数や先生の問題というのは、確かに大切かもしれませんが、先生のかげもちの部分などもしっかりと対応していただいております。少人数だからといって、何か偏りがあるとか、学習面で何か問題があるということはないと思います。

江山中学校エリアの問題ですが、昨年「かんの教育を考える会」のお二人が湖南学園に来られた時に、私も一緒にお話を伺い、湖南学園の実情についてもご説明をさせていただきました。そのようなこともあり、本日、お二人にお出でいただくことで、要望書提出の経緯についてしっかりと把握することができました。

子どもたちにとって、これからどういった形がいいのかということが大事な部分であります。神戸小学校にとっては、早くどうかしてほしいという思いもひしひしと伝わってきましたし、クラスに友達がいらないという現状をどうかしてあげたいなということを改めて思いました。

ただ、神戸だけの問題ではなく、これは江山中学校での問題でもあります。先ほど江山エリアでの検討組織の話がありましたが、そちらで地域や学校等でどのように対応していくのか議論なされたいと思います。そこでまとまった意見が、この審議会に出てくるとは思いますが、今回の神戸の意見とも合わせながら、どういった形が適切なのかということをお我々で考えていかないと感じました。

委員

神戸小学校の切迫した危機感を美和小学校と江山中学校で共有することと併せて、もし、小中一貫にしたら、「こういう教育効果が生まれる」、「3校合わさってこんなことができるようになる」、「3つの学校文化が合わさり、こんな新しい学校文化が生まれる」というシミュレーションをして、それを3校が共有していくということもこれから必要ではないかと思ひます。

来年、神戸小学校は1人しかいないという危機感だけを共有していても次のステップになかなか移りにくいと思うので、どんどん未来志向的にかつ具体的に、こんなことが実現可能になるのではないかというように「江山中校区の学校のあり方を考える会」が中心となってされたらよいと思ひました。

神戸小学校は、単独では厳しいということがほぼ固まっているようですので、小中一貫校にした時、あるいは小学校だけの統合とした時、どんな学校が作れるのか、どんな教育が可能になるのか、未来予想図を描いて行った方がいいのではないかという印象を持ちました。

副会長

感想になりますが、基本的には中学校区で考えるべきだと思ひます。例えば、湖南学園は今年が9年目ということですが、江山中学校の小中一貫を考える時には、この湖南学園がこれまで蓄積された成果などがどんな状況なのかということも重要になってくると思ひます。

小規模であっても良さがあるのであれば、江山中学校をベースということになるでしょうし、あるいはそうでなければ他と一緒にならないといけないということにもなると思ひます。規模的な部分で、湖南学園と近いということもありますので、江山中学校を考える時にある程度参考にするべきだと思ひます。

先ほど、河原との統合も視野にというように話も出ておりましたが、いくら鳥取市になったと言えど、旧気高郡、旧八頭郡、旧岩美郡というようにまだ意識的にはその辺りの括りが残っているような印象を受けます。中学校を見ると、気高、国府、河原、青谷、鹿野、福部などがあるように旧町が一つのかたまりになっているようですので、長期的に見れば河原ということも考えられるのですが、当面はやはり旧市内の近隣中学校、例えば江山、高草、湖南あたりでどうするかというように形の議論になるのかなと思ひます。

会長

ありがとうございます。

なかなか難しい問題です。小中一貫にするにしても、「どのような教育をするのか」、「小さな学校でもいかに魅力的な教育をするのか」ということが大事です。例えば、湖南学園にしても、小規模校転入生度によって校区外から来る子どももいるわけですが、そのような魅力ある学校を作っていないと、ただ単に「小中一貫でいいのだ」というだけでは、なかなかいい形にはならないのだらうと思ひます。

人数の問題もありますが、これからの時代に合った子どもの能力を發揮できる、大規模校ではできないような内容の教育をするということを含めて、規模とその教育の内容の魅力というものを

していかなければならないと思っています。

また、この江山中校区の再編を一気に進められるかどうかという問題もあります。神戸地区の現状を踏まえますと、神戸小学校の合併を先に、考えた方がいいかと思います。また、地区として小中一貫にするかどうかというところは、「江山中校区の学校のあり方を考える会」が議論を進めていかれると思いますが、あまり時間的な余裕がない部分がありますので、話し合いの中でそこまで踏み込めるのかどうかということがあります。ですので、小学校の部分だけは、例えば若桜学園のように、神戸小学校だけをまずは統合して、次の段階で小中一貫にするのか、中学校をまた別にするのかという考え方もあるかなと思いました。

本日、お出でいただいたお二人の話を伺うと、神戸小学校については早めに結論を出さなければいけないのかなと思います。これからの地区の方々の話し合いの結果を受けて、最終的に私たちが一つの結論を出すこととなります。地区の方々の話し合いもどんどん進めていっていただきたいと思います。場合によっては、事務局から様子を聞くだけでなく、直接私たちが出向いて地区の方々と一緒に話し合いをさせていただくという場が必要ではないかと思います。

神戸地区では、大変丁寧にこれまで取組をされてきておられます。アンケートの中身を見ましても非常によく工夫されています。全体的な方向性は、まとまってきているのではないかと思います。あとは、美和小学校と江山中学校を含めた話し合いが大事かなと思っています。

適正規模が大事ということもありますし、多少小さくても魅力ある学校づくりもできるのだというお考えもあります。実際にそういう学校も、できつつありますので、鳥取市内に留まらず、県内ですと例えば若桜を見てもいいと思います。このあたりの視点は、今後、気高についての議論にもつながってくるのではないかと考えております。

各地区でどんどん話し合いをしていただくとともに、私たちも地区とも直接やり取りをさせていただけたらと思います。そうすることで、色々な解決のためのよい方法が見つかるのではないかと考えました。

今後はまた、事務局と調整しながら審議を引き続き行っていきたいと思っています。通常、2ヶ月に1回のペースで会議を開催しておりますが、場合によってはその間に現地の話し合いなどを入れさせていただくこともあるかもしれません。特に、神戸小学校については早い結論が必要だと思います。

議事1の江山中学校エリアの件につきましては以上でよろしいでしょうか。

議事2に「議論が必要な学校区」ということですが、第12期からの申し送り事項がございます。前回の資料の16ページですが、本日は時間が取れませんので、もう少し資料をご覧になっていただいて次回以降に審議させていただきたいと思っています。かなり膨大な資料ですので、校区地図と併せ、地理の関係も確認いただけたらと思います。本日の審議した神戸地区ですが、とても谷が深いことがわかりました。先ほどの話にもありましたが、隣の谷との交流はなかなか少ないということもありました。そのあたりの地理の関係も含め、仮に統合ということになれば、バスで通うのかスクールバスを出すのかという話も出てくると思います。

そうしましたら、本日は予定の時間を過ぎておりますので、議事2に「議論が必要な学校区」については、次回に回すということでよろしいでしょうか。

本日の議事はこれで終了といたします。

また、事務局に次回までに準備していただきたいデータ、資料などがあればお伺いしたいと思います。この場でなくとも、後でお気づきがありましたら事務局にご連絡いただきたいと思います。

次回の日程調整をさせていただきたいと思っています。次回は、11月4日（金）の14時からお願いしたいと思います。なお、次回の前後の日に現地視察等が入れさせていただくかもしれませんが、ご承知おきいただきたいと思います。

それでは、進行を事務局にお返しします。

事務局

長時間にわたり、慎重な非常に深いご審議をいただいたと思っております。大変ありがとうございました。以上を持ちまして、第2回鳥取市校区審議会を閉会したいと思います。

平成 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 松ノ谷 博

署名委員 大 村 匡 由